

8月4、5日 大分大会特集④

Newspaper In Education

中津市東中津中



教育に新聞を

全国大会

教育への新聞活用を促す第21回N I E全国大会大分大会が8月4、5の両日、大分市のホルトホール大分などで開かれる。スローガンは「新聞でわくわく 社会と向き合うN I E」。新聞と出会う幼稚園から、社会とつながる大学まで、発達段階に応じた県内の実践例を報告する。

取り組みの狙い

まず楽しさ知らせる

長松 涼子教諭

中学校の発達段階では、自分の意見の根拠として持ってくる材料(根拠の理由づけ)が、小学校よりもより多様になってくることが特徴。根拠をより説得力あるものにしようと、自分の体験と照らし合わせたり、動かしがたい事実を持ってきたりして、材料を慎重に吟味していく。そのため、考えの判断材料として多様な媒体が必要になる。新聞記事はまさに、多様な材料の宝庫だ。

スタート段階の1年生には気になる記事の感想交流を通じ、多様な見方や考え方が存在することに気づき、新聞の楽しさも知ってもらいたい。選んだ記事にはそれぞれの興味や個性が表れるので、記事を紹介し合う活動は、出会って間もない友達を知ることにもつながる。まずは楽しい雰囲気の中で、新聞とのいい出会いの場をつくりたいと考えた。コピーではなく本物の新聞に触れさせ、新聞そのものに関心を持たせ全体を読ませることも狙った。

「楽しく取り組むN I E」をモットーに学年部の教職員みんなでアイデアを出し合い、3年間を見通して取り組んでいきたい。

新聞を活用して授業する長松涼子教諭

多様な意見交わす



1年生の3学級が一緒に入学後初めてのN I E授業

4月下旬に中津市の東中津中学校で、1年生の3学級が一緒に、入学後初めてのN I E授業。興味ある新聞記事を各生徒が選び、グループで発表した。「あなたが興味を持った記事、友達に教えてあげたい記事を選びましょうね」。教員も学年全体で参加し、4月に同校に着任したばかりの1組担任、河野秀男教諭が司会として場をリードした。

ワークシートに付箋

N I E担当ではないが、授業の進行はスムーズ。経験がなくても学年全体で取り組める校内の仕組みをしっかりとってきた。「昨年度の1年間で学校、学年全体にかなり浸透してきた。やるからには楽しく、皆がアイデアを出してくれるよう努めている」とN I E担当の長松涼子教諭。

記事の事前準備は、図書館の高橋頼子司書が大部分を担当。グループの机上に大量、多様な分野の新聞が並んだ。同校のN I Eでは学校教員と司書の連携も重要なポイント。司書は日頃から、テーマ別に記事のスクラップ集を作っている。教員にとってなくてはならない存在だ。

記事は十分に準備していたが、生徒は探し足りなかったのか、教室内の別の場所に設けていた記事コーナーにも自主的に殺到。興味の広がりや生徒の主体性や意欲を刺激したようだ。



教室内の別の場所に設けたコーナーで記事を探す1年生

リレーエッセー実践から

新しい実践を創造

進 麻美



常時新聞がある状況が生まれ、学年の各フロアで、新聞を常時手に取って読めるように。短学活や朝自習だけでなく、各教科の授業で新聞を使う展開を考え、実践しました。8月5日のN I E全国大会大分大会での公開授業を見据え、学級活動や道徳の中でも新聞を使う場面を設定し、実践を重ねました。いよいよ公開授業の年。新聞を使う授業で4月に新しい試みとして、PTAの参観授業で新聞を使い、エンカウンター(生徒同士の交流)をしました。



エンカウンターで選んだ新聞記事を他の生徒に紹介する判田中の3年生

実践指定から3年目を迎える中学3年生にとって、新聞を読むことは日常化しつつあります。自分で好きな記事を見つけ、記事の紹介文を書き、友達に紹介すること、同じ記事でも感じ方が自分と違ったり違っていることが分かったり、他者理解も生まれます。

新聞の可能性は無限大です。どう使うかを考え、今年も新しい実践を創造していきたいと考えています。

(大分市判田中学校教諭)

生徒の感想

興味ある記事探すの楽しい

▽衛藤海音さん(12)
新聞から興味ある記事を探すのが楽しかった。区切りが見出して分かりやすくされていて、区切りごとにいろいろな内容が詰まっていた。情報をテレビで得ることが多いが、テレビだけでは知ることができないことを、新聞でしっかり読んでいきたい。



内容読み取る力 身に付いた

▽河野和音さん(12)

新聞記事を探すとすごく詳しく書いてあるところが面白かった。自分が興味を持っている野球の記事を探し当て、クラスメートの前でスピーチできた。授業を通じ、記事の内容を読み取る力が身に付いたと思う。

